

図書館だより 2号



7月

令和2年7月11日
第一日暮里小学校
校長 白井 一之
学校図書館プロジェクト



今年の夏休みも「調べる学習」に挑戦しましょう!



今年8月8日から2週間の短い夏休みとなっています。本校で毎年取り組んでいる「学校図書館を使った調べる学習」は、今年希望者のみですが、ぜひ挑戦しましょう! 調べる学習を選んだ人は、夏休みの前からメディアランドで下調べを始めるとよいでしょう。※夏休み中、学校図書館は開館しません。1年生の「親子で調べる学習」は2学期以降に延期となりました。例年、身近な生き物から興味をもったことをテーマにし、本から「わかったこと」を見つけて書いています。※過去の荒川区受賞作品は、個人面談の期間中、学年のフロアに展示予定です。ぜひ参考にしてください。

今年度は、

- ①「調べる学習コンクール」か
- ②「読書感想文コンクール」のどちらかに取り組みます。(もちろん両方でもOK!)

① 調べる学習のポイント

1. テーマを決める

自分が興味、関心をもったことをテーマにしましょう。タイトルや目次も、具体的に読んでみたくなる工夫をしましょう。

2. 資料・情報を集める

資料・情報を集める方法には、図書館で調べる他に、実際に行く・観察・インタビューする、実験する、電話で問い合わせる、インターネットで調べるなど、いろいろな方法があります。1つの方法ではなく、いくつかの方法を組み合わせて取り組みましょう。

3. 記録・整理する

調べたその場で、書名、著者名、出版社名、出版年、所蔵図書館などを記録しましょう。後から記録するのは大変です。図・表・写真を使った場合も同様です。「参考文献(参考資料)」として、レポートの最後にのせましょう。使う資料・情報は多ければよいではありません。必要な情報を選んで、自分のレポートに必要なものを使いましょう。なお、インターネットは出所が明らかでないことがあります。インターネットを参考にした場合は、サイト名(わかれば著者名)、アクセス日とアドレスを記録しましょう。

4. 作品にまとめる

まとめ方は、レポート、ポスター、新聞など伝わりやすい方法を工夫しましょう。調べたことの他に、自分の考えを書き加えます。「調べる学習コンクール」出品作品の大きさは、最大 B4 サイズ、50 ページ以内です。

「わたしはこう考えた」「本で調べてみたら、こう書いてあった」というように、友達を読んでも分かるように書きましょう。文体は常体(～である。～だ。)か、敬体(～です。～でした。)にそろえ、引用は「」でくります。



②読書感想文のポイント

夏休みは、本と向き合い、本を通して言葉を豊かにしたり、考えを深めたりする時間があります。本について親子で対話することを通して、読書感想文につなげるのもよいでしょう。読書感想文は感動を伝える文です。感想文を読んだ友達が「その本、読んでみたい。」と思えるような感想文を目指しましょう。

読書感想文コンクールを選んだ人は、以下のポイントを参考にしてください。

低学年（1・2年生）の場合は、子供の様子に応じて、一緒に本を読んだ時のつぶやきや表情（その時に子供が考えていること）を、保護者が付箋などにメモで残しておく方法があります。メモをもとに、どんなことをテーマに感想文を書くのか、どんな順序で文章の柱を立てるのか決めて、書くといでしょう。

中学年（3・4年生）の場合は、読みながら、感想や疑問などをカードや付箋に書くといでしょう。後で、詳しく書く内容を決める手がかりになります。読んだ感想から、疑問を解決するための方法を考えるのもよいでしょう。文の構成を、始め・中・終わりで組み立て、読んでみて矛盾がないか確かめます。

高学年（5・6年生）の場合は、分かったことや著者の考えと、自分の考えを付箋やノートに書き、感想を整理するといでしょう。感想文の内容によっては、実物を見る、他の本に当たる、博物館や資料館を訪ねる、インタビューするなどしましょう。読書が生活に生かされ、自分の成長が感じられるような感想文になるとすてきてです。

読書を通して考えること、書くことが楽しいと思えるように自分に合った本を選びましょう。

1. 本を選ぶ

自分に合った本、なぜこの本にしたかを説明できるような本を選びましょう。

2. 読む

1回目 全体を読み通す。2回目 感想文に書きたいところに付箋を貼りながら読む。

3回目 付箋などを利用してメモやカードを作る。

3. 構成する

始め・中・終わりの構成（柱立て）を考える。

4. 書く

①書き出しを工夫する

この本を読もうと思ったきっかけ、感想につながる体験、なぜ?という疑問、会話文、感動した場面などから書き出し、読む人が感想文に引きつけられる工夫をする。

②中…感想文の中心

柱立てに沿って、どんどん原稿用紙に書いていく。読み直すうちに考えが変わってもよい。自分の言いたいことが一番表されているところに◎などの印を付けておく。書き終えたら、書き間違いを直したり原稿用紙を切り貼りしたりして、全体をまとめていく。

③終わり…結びを工夫する。

本を読んで自分の考えが変わったことや、成長できたことを考えて書く。

④題名を工夫する。

「○○○を読んで」ではなく、感想の中心となる言葉や文を題名にして、読む人の興味関心を高める。

⑤清書する。

※ コンクールに関する規定は裏面にのっています。



青少年読書感想文コンクールの応募要項より

(主催:公益社団全国学校図書館協議会・毎日新聞社)

対象図書 下の①か②のいずれか

① 自由図書

自由に選んだ図書。フィクション、ノンフィクションを問いません。

② 課題図書

読書感想文全国コンクール主催者の指定した図書。(右ページ参照。)

用紙・字数

① 原稿用紙を使い、たて書きで、自分の字で書きます。

② 文字数

低学年の部(1・2年生) 本文 800字以内

中学年の部(3・4年生) 本文1200字以内

高学年の部(5・6年生) 本文1200字以内

● 題名、学校名、氏名などは字数に数えません。

上に書かれた字数を超えないはんで、できるだけ最後の行まで書きましょう。

● 句読点(、や。)はそれぞれ1字に数えます。行を変えるための空白は字数として数えます。

書き方に迷った時は、読書感想文や作文の書き方について書かれた本があります。参考にしてください。

こんな時は^{とき}学校図書館^{がっこうとしょかん}や公立図書館^{こうりつとしょかん}に行きましょう!



(※夏休み中、学校図書館は開館しません。)

・調べる^{しらべる}学習^{がくしゅう}のテーマが^き決まっているけれど資料^{しりょう}の探し方^{さがしかた}やレポートのまとめ^{かた}方がわからない。

・読書感想文^{どくしょかんそうぶん}を書くためにどんな^{ほん}本^よを読んだらいいのかな?

かだいとしょよ
課題図書を読もう！

こんねんど せいしやうねんどくしよかんそうふんぜんこく かだいとしょ
今年度の青少年読書感想文全国コンクールの課題図書です。

ブックランドにあります。手にとって読んでみましょう。

【1・2年生】



『山のちょうじょうの木のでっぺん』 最上一平/作 有田奈央/絵 新日本出版社

ある日、いがらしくんに にしやんが「あのね。ごんすけが死にそうなんだよ。」と言いました。ごんすけは にしやんちの犬です。二人はそれぞれのやり方でごんすけと向き合います。

『おれ、よびだしになる』 中川ひろたか/文 石川えりこ/絵 アリス館

大相撲の世界によびだしとして入ったぼくはまわりの大人たちに見守られ土俵に立ちます。

『タヌキのきょうしつ』 山下明生/作 長谷川義史/絵 あかね書房

人間の子どもたちが帰った夜の小学校でタヌキの親子が勉強をしています。そのうわさは町中に広がり見物人たちでおおさわぎ。でもしばらくすると町はせんそうにまきこまれて…。

『ながーい5ふん みじかい5ふん』 リズ・ガートン・スキャンロン、オードリー・ヴァーニック/文

オリヴィエ・トルック/絵 木坂涼/訳 光村教育図書

ぎょうれつでならぶ5ふん、ジェットコースターにのっている5ふん。おなじ5ふんでもぜんぜんちがいますね。みなさんのながい5ふん みじかい5ふんは なんですか？

【3・4年生】



『青いあいつがやってきた!?』 松井ラフ/作 大野八生/絵 文研出版

友だちができないぼくの前にとつぜんあらわれた青いヘンなやつ。ぼくは一日いっしょにすごすことになり、おまつりに行きますが…。

『ねこと王さま』 ニック・シャラット/作・絵 市田泉/訳 徳間書店

ある日ドラゴンにおしろをもやされてしまった王さまは、一ばんの友だちのねこといっしょに町でくらすことになります。「王さまのしごと」のほかは何もできない王さまでしたが…。

『ポリぶくろ、1まい、すてた』 ミランダ・ホール/文 エリザベス・ズーン/絵 藤田千枝/訳 さ・え・ら書房

アフリカにすんでいるアイサトや村人がすてたポリぶくろはだんだん増えていき、村じゅうにあふれます。自分たちで何とかしようとしてアイサトはなかまと立ち上がります。

『北極と南極の「へえ〜」くらべてわかる地球のこと』 中山由美/文・写真 学研プラス

北極と南極はにているようで違いがたくさん。新聞記者の著者は何度も北極と南極に行き、美しさや不思議に気づきました。二つの極地から「地球」の今と昔がわかります。

【5・6年生】



『ヒロシマ 消えたかぞく』 指田和/著 鈴木六郎/写真 ポプラ社

戦時中 カメラが趣味の父親が家族の日常を写真でつづった本です。その日、広島の上空に落とされた原爆によって一家は全滅します。突然奪われた尊い命。戦争について考えます。

『月と珊瑚』 上條さなえ/著 講談社

沖縄の子どもたちが今まさに目にし、感じていること、友情や将来の夢が描かれています。

『飛ぶための百歩』 ジェツペ・フェスタ/作 杉本あり/訳 岩崎書店

失明し素直に助けを受け入れられないルーチョはキアーラと出会い大切なことに気づきます。

『風を切って走りたい! 夢をかなえるバリアフリー自転車』 高橋うらら/著 金の星社

体の不自由な人が乗れる自転車を作る堀田さん。仕事を続けるのは苦難の連続でしたが…。